

**北の物販倶楽部
謁見音声 書き起こし資料**

2016年2月28日 謁見収録

はじめに

◎【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReaderをダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

◎【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。下記の点にご注意戴きご利用ください。

- ・このレポートの著作権は『北の物販倶楽部』に属します。著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。
- ・このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。
- ・このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。
- ・著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。
- ・このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。
- ・このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。
- ・このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

北野会長：

あんたじゃなかったけ？まあまあ儲かってるゆうたの。

メンバー：

あ、物販で先月が月商1500万ぐらいです。はい。

北野会長：

ふーん。粗利益も1500万ぐらいあったじゃなかるうね？

メンバー：

いやー（笑）

北野会長：

本業は泥棒ちゃんやった。そんなことはないわな（笑）

真田孔明：

今日スープオニオンスープ試してみますか？

北野会長：

おう。おれオニオンスープ好きなんやて。

真田孔明：

あと今日オイスターが中心なんですけどステーキ二つぐらい頼んでシェアでいいですかね？

北野会長：

若い人がシェアして。あとまあいろんなやり方は、だから儲かるとるうちやから必ず腹ん中に思とらんといかん。もっと成功したらたくさん税金を納めたいと。いつも孔明さんが書いとるやろ？税金を納めることが北のセオリーなんだと。でね、大きな利益を計上するよりも小さな利益を計上する方が銀行は安心するんやて。だから小さくあげても銀行との交渉をして玉引きをやっぱ考えていった方が一社よりも三社で引いた方が余計入る。んであとはいつも言ってる通り玉引いたら今度は玉回しやから。そやろ？コップの水をこっちからここ入れるやろ？ほってからこっち入れるやろ？こうぐるぐる回せばええんやて。汽車や汽車。汽車にするんやて。こういうようなことを考えとけば。まあだから腹ん中に時計作るか、返済汽車を作るか。いやいや例えば一杯のビールこれ返済したとするやろ？ね？孔明さんところからまた次のビールがまたととととくるやろ？だからこの全体の会社の中で返済した財源のどれだけオーバーして玉を仕入れることができるかやて。わかるやろ？簡単なことが。で、これをずーっとやって返済を小さく借入れを大きく持ってくってほとんど返さないに等しいくらいになってくる。で、最後は銀行を説得して企業努力してなるべく返さなくて利息だけで勝負できるようにそういう強い体質を作ると。虚弱体質じゃなくて。インフルエンザにかからない体質を作れば楽や

よ。うちでも返済してないかゆうたら返済しとるんやて。会社全体から見たら。で、各社長さんに支店長の方を余計向いとれと。

真田孔明：

客ではなくて。

北野会長：

お客さんの方向いとってもいかんよ。お客さんはあとや。玉付けのあとに出てくるのがお客さん。まずはバンクが大事。バンクが。わかった？バンクが一番大事なんやて。世の中生き残るためにはバンク。だからバンクのお金を預かっとるちゃあ日銀かおれかなんやて。預かっとるわけやから。

真田孔明：

日銀だと確かにマイナス金利になるのに会長は金利を払うと（笑）

サツチェル：

日銀に預けたらマイナスになっちゃうけど。

北野会長：

こういう具合にものを合理的に考えると、すごくわかりやすい。この2,3知っとけば経営状態はものすごく楽になる。だから孔明さんでも収益上がって作った会社遊ばしとかんと、リスクをまわしとくんやて。A社からB社C社D社とこうやって。一番簡単なのは・・・おれでもね会社たくさん作っとっけど精算した会社もあるんやてね。で、都合悪くなるとどうしても精算の方にいくがね。

真田孔明：

（笑）殺しちゃうんですね、法人を。

北野会長：

殺すんじゃないくて、精算やから。倒産すると信用なくなるんやて。精算するがやて。

真田孔明：

あ、そっか精算ですね。

北野会長：

精算。これね精算ちゃあ一年かかる。日本の官報に載せんといかん。新聞みたいなのに載せて「我が社に債権のある人がいたら正しく教えてくださいよ」と。これから今日からやったら来年の一日前の日でないと、OKにならんわけよ。それでその会社は綺麗に整理整頓されたと、こういうことになるわけよ。ね？わかった？ちょっと難しいけど、やり口もあると。ま、知ってることと知らないことの天地の差ってのはそういうことなん。これぐらいあんまり大きな声出

さなくて聞こえるのがいいよね。いやほとんどそうやよ。あとなんか最近困ってることで、最近女が余計やったら困るととかさ。ホンハイどうなった？今日。結局今日調印したかげ？

サツチエル：

今日ですか？

北野会長：

今日やる？

サツチエル：

日曜ですよ。

北野会長：

あ、日曜け？ねえ今年うるう年でねえ？

真田孔明：

そうですね。

北野会長：

知らなかったはおれ。だからどっから29ゆう日が出たのか、うるう年やったわ。いやあ昔うるう年で思い出したけど、つきあっとった銀行がさ、うちの方が倒産するゆう噂がもっぱら出てね、銀行がさ支店長がきてやよ「なんでそこまでつらいのにおれに相談をしないんや」と。どうしたんですか？っていうたら「いや街ん中じゅう、きみが飛んでイスタンブールになるってもっぱら噂や」と。でそれが2月29、28がなぜかなかった29日の決済日は今日なんやと。ね？であん時に確か一回ねいやあだからうるう年やったから覚えとったんやて。その時に「じゃあ支店長当座に金なかったらさ、紙一枚持ってきてさ6ヶ月また送っといたらいいんじゃないの？」みたいなことゆうたんやて。でまあそこはパツと事務所から逃げたんやけど、3月に入ってからうんともすんとも言ってこんのやて。おれあん時ね「勝ったな」と思ったんやて。2月28日の小切手ちゃあ、2月28って下に書くやろ？落とす日をこれ過ぎたんやて。過ぎた。わかる？過ぎたものは？過ぎたものは？っていう問題になるやろ？いやいやまあ銀行やからそれから一週間ぐらいは有効期限があるとかさ。でも29があるから。

サツチエル：

ああ2月は29があると。

北野会長：

そう。だからうるう年やったんや。その時になんか冗談でさ、まあせっかく返済せんだやから支店長がうちを潰すか、ね？そこお互いに腹くくってね話ししなきゃあかんでしょうと。おれは別に新しい一枚の小切手にハンコ押すだけのゲームやから、それやったらそっちにした方がいいでないですかあ？みたいなこと話しをしたら、「ああ、うん、ああ、うん」ち。でも、支

店長。おれは払わなくても一枚目の小切手が不渡りになっても問題はない。他の銀行とも取引あるんやから。ね？支店長はおれの小切手を無視して飛ばしたらやぞ、あんたの先に首飛ぶよ。おれが先にあんたの首が危ないよと。支店長ほうはさ、さすがに頭がええひとやね。

サツチェル：

確かにそうだったんじゃないですかね。

北野会長：

そや。確かにおれの首のほうがあぶねえわと。こんなぼんちやなことやっとる暇はないと、自分の首が飛ぶよと。あれから特にねやっぱね、その氷付きが多くなったね・・・考えてみると。あれからそういう冗談をいうようになったら、支店長っていうのはねどこの支店長でもね、お客さんのことなんてあんまり考えてないんやて。覚えといて。おれのことなんて何にも野朗考えてないんやて。てめえの座布団の下ばっか考えてるんやがね。

真田孔明：

うーん。出世のことを。

北野会長：

ね？で、そうって冗談をゆうとさ、「いやそれはそうですけど・・・じゃあもう3ヶ月・・・」「お前3ヶ月言わんとバーンと半年ずつにしようよ」ゆうて。なんか「ええー！？ええー！？」みたいなことゆうて、まあ今度は金利も・・・

真田孔明：

それは飲み屋で？

北野会長：

そうそうそう。あとは酒飲みながらさ、「支店長ね、あんたせいぜいね今度栄転するから、偉くなって飛ぶからもうちょっと余計貸しといてくれ」と。こういう。あなたは売上増えるでしよう。僕は借入れが増えるだけや。ここでバーンと弾みつけるのにもう少し玉出してたほうがいいんじゃないですか？みたいなこと今度はゆうと、「うん。そうですね。」と、また酒とこの話を両方両立せんとね・・・わかった？酒も飲まれ飲まれで、話しもこういう話しを持っていくと乗りやすい。これが一番の成功の母の道のりやね。で、支店長が徐々に酔うてくる。あとは徐々に横の女にも注げ注げと・・・

真田孔明：

スケベ心が・・・

北野会長：

そうそう。

サッチェル：

なるほど。

北野会長：

だから銀行が一番のお客さんなのさ。ねえ？あんたところのサイトに銀行が一番なんか、あの図面ちゅうか、facebookにでとる画面といつも違ってない？いやfacebookのこう北のセオリーかなんかの書いてあるやろ？あの絵がさ、写真がさ、なんか道の絵やったりなんか他の・・・

サッチェル：

毎回写真変わりますよね。

北野会長：

そやる？なんかえらい似たような話っちゃああるもんやなと思って、画面が違うもんで、おかしいなあおかしいなあと思って。よく見たら書いてあるんあんた達けえ？知らなかった・・・本当。どこで騙されるかわからんもんやね。おれ前にもそうやって言ったやろ？最近なんか似たようなサイトが孔明さん出てるんでないの？みたいなことゆったら、「ああそうですか。」ゆうてさっとゆうからさ。説明なしやのおれに全く。

真田孔明：

ん？似たようなサイトってなんでしたっけね？

北野会長：

んなんな、似たようなサイトを本当は同じサイトのことを、あれが絵が違うとるもんでおれのところに違ったサイトたくさんでとるんかなあと思とったんや。見るたびになんか違った絵がでとるし、普通はだいたいね、同じ絵が出るのが普通でしょう？なんか道路の絵やったり、なんかこう・・・

真田孔明：

あの写真はわざと変えないと同じだとあれなんですよね、facebookは特に。

北野会長：

そやる？で、おればかやから「本当に似たようなこと書いとる人がいるんや」と思って、ずっと見とったんやて。それでなんか増えたなと見るたびにまたでとるし。

真田孔明：

オイスター1人5個分ずつ。

北野会長：

食べて食べて。孔明さん結構好きやねこれ。

真田孔明：

オイスター、はい。

北野会長：

なんか薄くない？

真田孔明：

なんか薄いですよ。これちっちゃいですよ。ちっちゃいですよ、これ。全部小ぶりなのばっかですね。オイスターがちょっと。

北野会長：

さあもう一個これだれ？もう一個食べて。あんたやねかい、もう一個。今度ステーキ？まだオイスター食べたい人。どう？なんか孔明さん、これ食べんと。やっぱねおれ5個食べたらいっぱいっぴいやね。これやっぱ亜鉛やろ。亜鉛ともいうけども俺らの業界ではノロウイルスの頂点やとも言われてる。いやいやだから昔からおれはこれの大食いはあんまりせんようにしとる。

真田孔明：

ああほどほどに。

メンバー：

なるほど。

北野会長：

これとハクビシンは・・・

メンバー：

ハクビシン？

北野会長：

ハクビシンでお猿みたいなあれ。あれもだから世界のノロウイルスの菌の頂点は彼なんやちゃ。神様みたいなものやから、顔見たら可愛らしい顔しとるんやけど。まあノロちゃんの頂点なんや。もうあれは中国行くと一番高値で食べられとるん。

メンバー：

あれ食べるんですか？

北野会長：

そうそう。あれ一番おいしいんやと。

真田孔明：

え、何ハクビシンって？

メンバー：

ハクビシンってなんか狐・・・フェレットみたいな。

真田孔明：

へー。

メンバー：

白いやつですよ？

北野会長：

そうそう。長さがね尾っぽがこれぐらい。尾っぽでこれくると巻いてぶら下がりて果物を取って食べる。タヌキ・・・と同じような顔しとる。タヌキは真ん中に線がないやて。あれは鼻が真っ白やもんでハクビシンっていう。

真田孔明：

それ精力にいいんですか？

北野会長：

いや、精力じゃなくてなんか美味しいやゆうね。

真田孔明：

あ、おいしいんですか。

サッチェル：

だけどノ口がすごいっていう・・・

北野会長：

そうそう。ノ口ちゃんがすごい。この前家入ってさ。2匹捕まえて食べてやろうかなと思ってこないだゴルフ行ってる先生に「先生今日ハクビシンでも食べるのはいかがですか？」みたいなこと言うたら「あれが頂点なんや」と。「ええー？本当なの？」って。結局わしもビビってしもうてさ、頂点と勝負しとったってね、勝ち目ないじゃないかなとおもた瞬間に止めたわ。

真田孔明：

会長頂点嫌いなんですもんね。

北野会長：

頂点は嫌い。

真田孔明：

ナンバーワン、頂点が太っ嫌い。

北野会長：

風当たりは強いしあんまりいいことはないんやて。

真田孔明：

下しか見えないし、頂点は。

北野会長：

そうそう。落ちてくれや。

真田孔明：

で、今まで頂点を叫んだ人は全員死んだと。統計学的に。ナンバーワンを叫んだ人は。

北野会長：

だから絶対にねナンバーワンってのはほ、人生ってのは失礼やけどみなさんまだ年若いから人生まだながーく感じとる。おれくらいの65歳になってくると、人生っちゃあもう「ええ！？10年で75。20年で85」ゆうて生き残りゲームに入っとるからね。わかる？ すごえやろ？ 人生はもう短いつていう感じになってきとる。人生は短いやよ。これで女も抱けない酒も飲めないってなったらなんで生きとっかはっきりわからんよ。

真田孔明：

お金の使うあてがない。

北野会長：

そうそうそう。まあそういう具合に・・・あ、これオニオンスープ？ オニオンが全然見えないけど（笑）

メンバー：

すごいですね。とろとろになっちゃって。

北野会長：

すごいね。Oh paper? Thank you! うん、オニオンや！間違いない！

一同：

（笑）

北野会長：

パンもってきてパン。

サッチェル：

あ、頼みました。

真田孔明：

あれ一個しか持ってきてない・・・more bread.

メンバー：

会長。ちょっと質問なんですけど・・・

北野会長：

いいよ。なんでも言って。

メンバー：

やっとこの2月末で第1期が終わりまして初決算を迎えることになりまして、おかげさまで黒字決算は出せそうなんですけど、その銀行への持っていくかたとして、まず決算が出るじゃないですか。1ヶ月ぐらいで作れたとしてその銀行へ自分から持って行ったらいけないんですかね？

北野会長：

経理士は雇ってないの？

メンバー：

経理士雇ってます。

北野会長：

んな経理士さんがあんたに決算書をくれるから、それをもって銀行に行くか、銀行家から借り入れあれば銀行がちゃんと自動的に取りにきてくれるから。

メンバー：

そうですか。でも銀行が出しなさいっていったら持って行く・・・

北野会長：

出しなさいって銀行は大体取りに来るんやて。

メンバー：

あ、取りにくる・・・

真田孔明：

あと決算出たあとあいさつでもいいですよ。菓子折り持って草加せんべいもって。

北野会長：

銀行に？そんなこと一回もしたことないなあ。経費は節減のおれやから。

メンバー：

じゃあ決算書持って・・・

北野会長：

そう。決算書をね大体銀行から借入れ・・・国金から借入れしとるとね・・・

メンバー：

うん、だせって言われますよね。

北野会長：

ね？出してくださいって相手がゆうがやて。でもねペイペイにねそんな菓子箱、饅頭出してもだめ。それよりも支店長と一度飲みたいとかさ。でも担当者が結構甲斐性のある担当者やったら話は別やよ？そやる？

メンバー：

その持って行った時にあれなんですよ？こっちから黒字なんでまたお金かしてくださいっていうのは絶対いっちゃあだめなんですよ？

北野会長：

それは一呼吸ついた方がいいんじゃないの？

メンバー：

一旦黒字です。ありがとうございますって渡して何も向こうから言われなかったらそのまま帰ってくるぐらいの・・・

北野会長：

それやったらただの無駄走りやからやっぱお金余ってたら貸してくださいねってそれぐらい言って・・・

メンバー：

それぐらいは「黒字でお金余ってるんですけど、どうですかね？」みたいな・・・

サッチェル：

どうですかね（笑）

メンバー：

どうですかね、はちょっと違うかもしれないですね。

北野会長：

あ、でもやっぱアプローチはしてた方がいいなあそれやったら。

メンバー：

会長でしたらどういう風にアプローチされますかね？

真田孔明：

1期目ですよ。

北野会長：

あんましにも年数が経ちすぎててどういう話をしたがか・・・

メンバー：

本当に基本的な質問ですけど。

北野会長：

初年度は・・・本当にそんなこと覚えてないわ。

サッチェル：

でも今までの話からいうと、そんなに焦らず・・・

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

背中で語らないとね。

メンバー：

貸して貸しては絶対に言わないと。

サッチェル：

前のめりだとほら、だめじゃん前のめりは。貸してくださいっていう人には貸したくないのは銀行だから。まあゆっくりやってみれば・・・

真田孔明：

銀行のほら融資部門から聞いたのは、一年に一回七夕のように決算書が出たら渡して終わり。あとは向こうから声かけられるのを待つ。

サッチェル：

あとはセミナーとか出るとかね。

真田孔明：

新規開業のね。そしたらね「そうだったんですか？」って言われたら決算書だせますもんね。セミナーでろって言われる。名刺交換。家に行っていていいですかと。

サッチェル：

で、僕らの会社だと今やってるんだけど、銀行は口座開設しませんか？って言う話きましたよ。

メンバー：

あ、きましたか。新しい銀行から。

真田孔明：

決算書は？

サッチェル：

決算書はまだ。

メンバー：

セミナーって名刺交換したんですか？

サッチェル：

お金は困ってるんですかって聞かれたらちょっとあれだけど、「いやぁ特に大丈夫です」。やっぱね早く決算書を見せたい。そこから始まりなんで。

真田孔明：

完璧な決算書をね。（笑）1期目から完璧な決算書が。

北野会長：

あのね銀行ってのはね実態なんて全然関係ないんやて。あれA4の紙だけで融資しとるんやから。実態なんておれからゆうとあやふやなもんや。

真田孔明：

最近の銀行マンで、支店長でも決算書読めないみたいですね。みんな銀行マンは銀行に帰ったら何するかってパソコンに打ち込んで、ポチッと押すと評価が出るみたいなんですよ。会社の。

それに基づいてやってる。だからその評価の中でしか裁量ないみたいなんですよ。もう完全に。その時確かに会長おっしゃるように利益出てる会社危ないっていうんですけど、銀行確かに利益出てるのはだめみたいなんですよ。倒産する確率が高い。アルゴリズムだから。だから会長のおっしゃる通り。

北野会長：

いやいやだから利益で税金たくさん払っとるなんて思うやろ？ね？じゃあ銀行から見たらどうなんのかっていうのがまだ見えとらんわけ。少しあるけども、もう少しあったんですけど在庫少し削りすぎたもんでこれぐらいになりましたねみたいなことゆうと、「え！そうなの？」ここがこう柔らかくなるがやて。わかった？人間ちゃそこなんやてね。2500パーツでお前一晚俺と寝るけども、500パーツは君の企業努力で変わるんだよと。こういうのか、先に3000パーツを払ってしまうのか。

真田孔明：

全然違いますね。

北野会長：

そう。だからこういうのも練習ラウンドやって言うのを昨日からいっとる。

真田孔明：

常に。

北野会長：

いや、そういうことさ。だからそういうことを一番覚えておくとかやっぱ長期的な展望としては・・・

メンバー：

ちなみに会長が支店長と飲みにかれたのって何年目とか、融資額いくらとかなんかありましたか？

北野会長：

本当にごめん。去年のことですらみんなに言うのとるやつやろ。俺の場合はやよ。支店長に「最近男上がったね」とかさ。みんな俺より年下やから今日行けばまたモテるよ、みっちゃんに。みたいなことゆうとるわけよ。そうかな？そうかな？みたいなもんで、首を曲げとるわけやけどもこうどんどん飲み屋行って話しとるような仲がイコールやからね、銀行とも同じ。おれはね。あんま余計変わらんのやて。本当に長い間こうやってるとはっきりわからんようになるね。あのね、銀行が一番簡単に口説き落とすのは、やっぱキャッシュなんやちゃね。キャッシュと甘い言葉やね。わかる？やっぱ辛いスープよりはちょっとこの甘めのスープの方が飲みやすいやのと同じなんやてだから。これはおれはね、全体に共通しとるもんでないかと思うね。

真田孔明：

会長が以前おっしゃっていたのは一社目から借りたお金を銀行にポンと入れて、そこで融資ひっぱって三つ目の銀行に入れてそこで融資ひっぱって、それで五つ目の銀行で融資ひっぱってどんどん膨らんでってビジネス始める前に150万円が2000万になったという。（笑）これを10個の銀行を返すと。

北野会長：

いやそれはね、おれ漁業科出やもんで、学校で習ったのはプランクトンをイワシがこう食べるんやと。そのイワシをサバが食べると。サバを今度はフクラギが食べると。その後今度はフクラギをマグロが食べると。経済はこういう具合になっとるんやと。習ったのはこれぐらいのもんで。そしたらお金ないときはまずプランクトンからの話やからさ、まずはイワシの中にいれんといかんやろ？発想は簡単や。そんな難しい話やないすべては。ここに銀行あるやろ？道路を渡って向かいの銀行に行って2番目の融資を頼んどんやから。すごいね、営業なんてする暇ないんやて。金つくるがにいそがしくて。

真田孔明：

最初からそこいってるのがすごいですね。

北野会長：

でもね、当時の話はよくおぼえとるんだけど、仕入れる金がないんやて。10万円はもってたんやて。

真田孔明：

新婚旅行から帰ってきた後・・・

北野会長：

そ。祝儀の残った10万円。あとないんやもん。そやろ？いやあんときほど企業努力したことは今でも忘れんね。ジグザグにまわとったんやから、こうやって銀行を。本当に借りたときに思った。「おれは天才やなあ」と。

真田孔明：

それ次のところに預金するっていうこの発想が当時にあるのがすごいですよね。確かに現金があるからね。ありえない発想だな、これ。今聞いたらなるほどなあと思いますけど、無の状態ですれが出てくるっていうのがね。普通だったら絶対ビジネス始めちゃいますよね？頑張って。

北野会長：

でもさ、ビジネスする仕入れのお金がまるっきりないもんで、そうせざるを得なかったんやて。親戚はさ若いから当然結婚したとこへほんなバカみたいな話誰も聞く耳持たんやね。そこで考えたのが、やっぱ銀行と勝負するしか手がないと。

真田孔明：

すげえ。最初から・・・

北野会長：

銀行はでも案外ね「いくら定期するからいくら貸してくれる？」っていうたら「30万ぐらいがいっぱいいっぱいですね」て。会社も作ったとこですし、て。そのときになんかね「国金さんをお願いして・・・」、え？そんな話初めて聞いたわみたいなもんでさ。国金さんはどこにんのよ？って聞いたら「ああそこにあるんですよ」っていうから、じゃあ悪いけど紹介状書いてくれと。

真田孔明：

ああ～紹介してくれって言ってたのかあ～。

北野会長：

これぐらいはへっちゃまでいうやつやから。言わんよりもいうたほうがええんやから。ところがやっぱしね、銀行の紹介状持っていくとね国金の人も態度が違うよ。

真田孔明：

態度が違いますよね。

北野会長：

それが言いたかった。

真田孔明：

銀行は本当に、セミナーいくかもしくは誰かからの紹介じゃないと窓口開かないみたいなんですよ。もう銀行員がいてるんで、それ。自分で窓口くるやつは実はダミーで、開かないんですよね。道がね。すごいなあ。

サッチェル：

2回目からね。

北野会長：

だからやっぱ嘘も方便じゃないけど、さらさらっとそういうことが言えるようになると楽なんやて。毎晩おはようございます言わんのとそういう単語と同じなんやて。

真田孔明：

確かにそうですよね。会長の横に通り過ぎる人みんなに会長声かけてますもんね。

北野会長：

やっぱまめによいしょにプレゼントやて。これが一番効くんやから。

真田孔明：

普段から剣の練習をしてるみたいで。抜刀ができると。

北野会長：

そうやる？だから初めて剣抜いて傘切りなんてゆってもなかなか切れんいうがそこや。だからね、へいぜ・・・でもあんたさ、どういの？居合はあんだけできるんやから、やろうと思えば傘切りも辻斬りもできる。まああんたのようなのはエンジンかけてから6ヶ月間動かんからね。車がギアが入らんちゅうもんかさ。空ふかし6ヶ月やるタイプやから怖いよのう。でもこれはね、あんたができるかできんかの瀬戸際なんちゃ。あんたができるようになれば下の人はみんなおもとるんやて。「あの孔明さんができたぐらいやから僕にできないわけがないんじゃないか」と。ほら、みんな今笑ったやろ？みんなそう思っとるんやて。「まああの孔明さんができたぐらいやから、自分にできんゆうことはない」。ところがあんたができんと「やっぱむずかしいんやな」というここでおそらくおわってくよこれ。まあ今日は第2章に入ったような話ばかりやったけど。会社の数を作る。傘切りを覚える。昨日ちゃんとゆうた輪ゴムをちゃんと足にくるんで確認してから飛び降りるんやよ？

メンバー：

はい。

北野会長：

孔明さんみたいにゴムまかで飛び降りたら、「いやぁ水まで行きましたね」「どうしてなんでしょうね」いやぁ孔明さんそれね、縛ってなかったんじゃないですか？ち（笑）

真田孔明：

もしくは長さ間違えてる（笑）

サッチェル：

長さ間違えて「すみません。会長。水まで行っちゃいました」みたいな。「でもまだ生きてます」（笑）バシャーンっといったけどまた戻っていったと。

北野会長：

いやぁまあそこらがこれからの大事なセオリーになってくるんじゃない？あとは儲けたとこはやっぱ今みたいにして、時計を作るが電車を作るが。金も一緒での時計を見ながらじっと考えとれば、で・・・いいときはゆっくり考える。悪いときよりももっと時間をかけて戦略を立てんと。さっき孔明さんも言った。7年経って初めて自分のゼニやからね。これステーキ？

真田孔明：

あ、ポークスペアリブです。ポークです。

北野会長：

ポーク。ああ、豚・・・

真田孔明：

あんまりお好きじゃなかったですか？

北野会長：

んなんな。そんなことねえ。体弱いもんで。

真田孔明：

二個ずつ・・・

北野会長：

昨日と同じ肉かな？

真田孔明：

こっちはそうですね。

北野会長：

こっちは間違いなく昨日と同じ肉やな。

真田孔明：

これで終了ですよ・・・食事。

北野会長：

うん。

真田孔明：

ちなみに会長が最初に鷹の方に行こうと思ったのは、どういうあれがきっかけだったんですかね？

北野会長：

いやいや全然きっかけなかったんやて。ちょっと友達がなんか頼みにいきたいもんで、一緒に暇ならついてきてくれない？みたいな・・・

真田孔明：

あ、一人じゃ心細いからつつって・・・

北野会長：

そうそうそう。

真田孔明：

その友達は何を遣られてた人なんですか？当時。

北野会長：

土建業。

真田孔明：

土建業。あー。で、その友達はなんで鷹のところに行くってなったんですかね？

北野会長：

いや、やっぱ工事受注をもらうために陳情、おねがいやね。だから当時はうまくいったんだけど、やっぱなんかで工事内容で引っかかってね、工事を修正するっちゃあ作ったものを剥がしてまた工事せんといかんやろ？あれでやっぱたくさん損が出たと。それと株の暴落が足引っ張ったね。一気に。

真田孔明：

その方は消えられてしまったんですか？

北野会長：

死んでもたね。

サツチェル：

そうなんですか。

北野会長：

だから友達・・・嫌な話やけど、平成に入ってから残ってる友達っちゃあ2割おらんのじゃね？だからやっぱそこを彼がよく文章で書いてさ、「5年で何割10年で何割」あれがなんか本当に「この人まだ人生短いかにこうやてうまいことデータをととっちゃる」と。今度ねおれね65ぐらいになると、先輩は虚弱体質で入院したりさ、癌だらへちまだら曲がったらやろ？下のもんはまだ勢いが・・・下はね、下の人があんま育たんちゅうもんかさ。

真田孔明：

危うい人ばっかだと。

北野会長：

うん。そうそう。パーっとねもう花火のように儲かった人はだいたいね、半分は女に貢いで終わっとちゅうかさ。今の話もつかんだ奴がさ、一気に我慢して持っとるのに、熱い鉄を持っとるみたいになってさ、すぐこう、金を・・・

真田孔明：

なんでもできると。ビジネス・投資に再投資しちゃうんですね。

北野会長：

だから本当あっちゅう間やね。そういう下の人もいっぱいおったんや。彗星のように現れて・・・

真田孔明：

地域一番みたいなやつ・・・

北野会長：

そうそう。なんか「おれはたいしたもんや！」みたいなことをゆうた日もあったんやて。で、今残ってるかゆうて後ろ見たら誰もおらんのよ・・・本当に。所在不明ゆう人の方が多いでないか。いやいやだからあんたの言う経済から言うと合っとるんやて。「失われた20年」の中にいた人やから、ばーんと花火1発ね。でもそれが永遠に続くっていう・・・要は甘い時代じゃないってことでないかなあとおれは思うんやけど。これが私の打算的な、ね。でまずはやっぱ脇を固めて、金もちびちび使う癖をつけとく。おいしい話があったら絶対に乗らない。あら、これ胡椒？

サツチェル：

これ胡椒です。失礼いたしました。塩はこちらです。

北野会長：

あ、おれ今それかけたんや。

真田孔明：

で、最初に鷹のところと一緒に友達と行ったわけじゃないですか。そこからどういう風に発展して行ったんですか？話が。なんか株の収益の10%を上に乗納するっていう人見たことないっていうか聞いたこともないんですけど。

北野会長：

あ、おれけ？おれはさ、自分の能力で考えてもいい情報を思いつく、計算して出す、おれの能力では絶対無理やなあと思ったんやて。それよりも相手が知っとることを教えてくれた方がはえやろ？それだけ。おれはもう昔から同じ、考えかたが。ムリムダムラはせんのやて。そんなお前あんたの知り合いの本300冊年間読んで、そういう人もおんだかいね。その300冊読むこと自身がムダでないかなあと思う。facebookでこうサラサラとああやって見とるだけでしんどいのになやぞ、本読めたら老眼さんやぜ。目潰れてないよ、今頃。

真田孔明：

最初友達と一緒に鷹のところに行ったわけじゃないですか、建設業の。それでどういう風に付き合いが開始されたんですか？

北野会長：

いやただ普通の人やった、ただバッジつけとる人やって、なんとなく・・・あ、あの先生が1期目で当選したんやちゃね。昔、当然1期目があるんやがね。あれは確か無所属で当選したんや・・・彼は。ほんだら自民党から「お前自民党にこい」と声をかけた人がおったんやて。ほんで、要は入ればこの人は兄貴分やろがよ。これはおっちゃんやちの。こういうところから、わしらはそこが玄関やったゆうのか・・・

真田孔明：

会長じゃあ最初どなたのところへいったんですか？

北野会長：

知り合ったのは「事務局削除」さん・・・なんかおれの先輩が今度この秘書しとった「事務局削除」ゆうのがね・・・

真田孔明：

「事務局削除」の秘書でしたけ？

北野会長：

んなんな「事務局削除」。

真田孔明：

あ、「事務局削除」・・・

北野会長：

「お前らちょっと面倒見たってくれ」みたいなこと言うからさ、聞いたらお前「事務局削除」やろ？あっちはほ、秘書上がりの・・・おれからゆうと貧乏たれなんやて。バッジつけたゆうてあんなもん手取り、秘書の給料引いたらほとんど2～30万あるかないかや。

真田孔明：

へー。

北野会長：

清く正しくね、事務所開いとれば。それが世の中やで、それが世の中。給料、結構もらえるみたいなこと書いてあるやろ？

真田孔明：

3000万だとかなんとか・・・

北野会長：

そうそう。あとなんとか研修費とかなんとかつかえるみたいなことゆっとなけど、一年生はあんまりできんのやち。結局ほうやって無所属なんていうのは党派おらんから。で、結局兄貴分に自民党入ってった中感じやったな。

真田孔明：

で、その「事務局削除」先生の上に着いたのがあの先生のところだったわけですね？

北野会長：

そう。「事務局削除」んところについた。「事務局削除」はやっぱ「事務局削除」とかどっかそこらへんが、また鷹の兄貴分やから・・・

真田孔明：

まだ上には上がいた若い時代なんですね。

北野会長：

その時のみんなバッジのみで、総理大臣とかなにになに外務大臣とかそんなん全然なしや。

真田孔明：

普通の若手の議員だったわけですね。

北野会長：

そう。若手の。

真田孔明：

それでもよくそこでパーンとそこに行きましたね。すごいですね・・・偶然にして。

北野会長：

いやいや、行ったんでなくてたまたま「先生今なにやってるの？」って「事務局削除」ゆうてね、「事務局削除」派の一番、もう一人も一番ゆうのがおったんやて。「事務局削除」の一番さんがおったんやて。頭一つやけどふたつやから。言えばそこからの人生騒動やね。

真田孔明：

その時まだ20代だったんですよね？会長。

北野会長：

わしはバンバンの20代やわい。

真田孔明：

すごいですね！20代で・・・歴史が違う。

北野会長：

いや本当その時は・・・どういうの？なんかたまたまちょっと酒飲んでたらさ、銀座へ行きたいんだよねみたいなことゆうから、こっちはもうもう商売いいから「まあ銀座・・・2～30万はみとかんंनाあ」みたいなもんや。せっかく頼んどるんやからまあ一回連れてってやろうかやぞ？わかる？こっちが。んでそれでようは飲みに行ったわけやないかい。それからのずっと付き合い。だから昔は社長社長ゆうて野郎の方がおれのバツタ足みたいにしとったのに、最近なんかえらあなってお前頭禿げたからゆうて、こういう雰囲気でないかよ・・・あんたたちは庶民やから、あんたたちができるのは対策しかないんやて。政策は鷹の人が作るんや。庶民は対策するだけで一生終われる。そうやって昔言われたことあってね、飲み屋で。

サッチェル：

それでパッカーンしたんですか？（笑）

北野会長：

そうそう（笑）いやそこは、先生やったもんで。いや、おれあれ言われたときにね「あ、確かにそうやな」と思ったんやて。「君は今日の国会の話を今聞いとるんや」と。今日の国会の話を。

サッチェル：

そっか。そうですね。

北野会長：

国会でこういう答弁したとか、こういう法案を通そうとしとるとか、今、今日の話をこの時間に聞いとるんやて。新聞記者ですら知っとるもんがないんやて。なんか価値があるんかなあ。と。本当そんな感じ。

真田孔明：

上にいくほど偉くなってっちゃうんですか、バッジが。

サッチェル：

あ、コーヒーあります。

北野会長：

言った？

真田孔明：

まだです。

サッチェル：

Hello? Hello? Coffee.

北野会長：

そうそう。金も同じなんやて。みんな初めての人もおるから・・・ここ海や。ここあなたここに立っとる。

メンバー：

はい。

北野会長：

ちょっと大きいけど、これよりもっと小さいおちょこでこの海の水を救うんやて。したら回数余計できるやろ？自分は金持ちになるがや。たったこれだけの法則なんやて。これをちょっと変形したのが株なんやて。ね？株こう薄く切ったり。孔明さんは労働せんとして去年1000万以上の金を動かしてそーっと薄切りしてやぞ。

真田孔明：

途中で厚切りになっちゃいましたけどね。（笑）

北野会長：

そこいわんだからいいゲームやったのに途中からなんか・・・

真田孔明：

欲張ってバケツを（笑）

北野会長：

バケツ持ってきて（笑）

サッチェル：

腰痛めちゃったみたいな（笑）

真田孔明：

貯めてからすくおうみたいなね。

北野会長：

だからここがやっぱ人間なんやてね。だから今度そうじゃなくて、餌をつけて・・・餌をつけてちょっと無理かな。竿を垂らす。竿を、わかる？釣竿を垂らす。糸が付いとるやろ？で、餌

をつけて。わかった？今度から、だから売りっちゃあこういうことなんやて。売りちゃあここにおいて、竿で餌を流すんやて。糸は結んどかんあかんのやて・・・わかった？孔明さん聞いた？糸は結んどかんにゃあかんのやて。餌単独でこうやって蒔いたらあかんよ。（笑）こりゃあ無駄遣いっっちゃうやつやから。

真田孔明：

ちゃんと釣りする時は、手仕舞いして糸をちゃんと長さを測って（笑）

北野会長：

俺ほ、漁業科やから釣りのことはわかるから、だから竿を出した時も餌をつけても糸と針がちゃんとつながるとるいう確認しとかんとさ。孔明さんは餌はつけたけど、針は単独で落とすとるったら「あれ？あ、糸が付いてない」ってこれじゃあかんからね。今度糸と竿の問題もあるし、やっぱそういうことを押さえとけばまあまあ、というのがかな。上がりにかけるか下りにかけるかゆうと、徐々に下りに慣れていくと下りの方が神経が楽やなと。ちょっと上がりの方が神経にはしんどいなという気がするんやて。でもそういうものもねえ、やっぱ餌をなげるゆうたあ難しいんやて。餌つけて投げんといかんからね・・・わかる？針だけ投げとつても餌つけんと獲物はかからんやて。ここにこの空売りのこの難しさがあるがね。で、居合はさ、パンと剣で跳ねた分だけが自分とこへチャランと落ちてくるんやて。あれ。チャランゲームやから。チャランゲームの方が人間は馴染みやすいちゃうもんかさ。

真田孔明：

しかも居合抜きの方は、水はいくらでもあるからちびちびできるけど、糸の方は下に魚がきてないとダメなんですよ。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

波とあれと・・・

北野会長：

そういうことゆうと本当結構やっぱ難しいのは本当かもしれん。

サツチエル：

魚がいるところに垂らさないと意味がないですもんね。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

魚がいる時にね。

北野会長：

商売も同じで、海においてさ海の下の魚って見えないやろ？だから魚のいないところで釣りやってもかからんやて。だから魚のいる場所を探してそこ行って魚を釣らないと釣れないわけよ。原理は同じなんやて。だから僕は一般の話し方であんたたちに話して説明してくれっていわれどもやっぱできないんやて。魚とか波とかっていうとこの自分の得意の分野であれば、「あ、こういうのと同じだよ」と。釣りと同じだよと、こういう具合に説明できる。文学者じゃないからね。ただ適当に自分がわかりやすいように自分に説明しとるだけで、皆さんがあとは理解するか誤解するかは点々やから。ま、失敗も点々やけど。あとは自己責任で株も女もまずは自己責任で挑戦すること。あとは野となれ山となれ。まあ皆さんまだ若いから夢もあり希望もあり企業努力すればなんとかなる。企業努力すればね。おたくの会が今どれだけおるなかのその1割残ればでかいもんやぞ。砂糖これ？

メンバー：

こっちが砂糖だったと思います。こっちはあの一なんだろ？砂糖もどきみたいな・・・

サッチェル：

前持ったときは中立・投資。大丈夫ですかね？

メンバー：

そうですね。なんか前投資とかいきそうな感じ・・・

サッチェル：

全投資は（笑）

真田孔明：

えっなんかやろうとしてたんですか？

メンバー：

いままで物販はいけると思ったら結構ガンガン攻めてたんで同じことやってたらたぶん・・・塩漬けになっちゃうんで。

真田孔明：

なんかねバンダイとかも過去見ていくと、大ヒットした商品の方が大赤字でてるんですよ。あれ。たまごっちとかね。

メンバー：

え？たまごっち赤字だったんですか？

真田孔明：

うん。大赤字大赤字。

サツチェル：

えーそうなんですか。

真田孔明：

それで傾いたんだよね。ほら。大量発注しちゃうでしょ、売れる売れるつって。前投資で。まさに。でそっちの方がいつも赤出る。ほどほどの商品の方が黒字になる。

北野会長：

慎重に臨む。わかった？

メンバー：

はい。

北野会長：

ここが一番大事や。だからおちょこで返しとるとき。バケツを持った自分を考えてみら。こういう、要は簡単なんやて。原理は。

サツチェル：

あとは会長あれですね。必ず陸の上から掬わないとダメですよ。安全なところから。

北野会長：

そうそう。

サツチェル：

海のなか入ってちゃったら津波にのまれちゃうから。

北野会長：

我が身が一番大事。自分の身を守ること。

真田孔明：

遠くに嵐が来たら逃げると、丘に。

北野会長：

いや、嵐が来たらもう山へ逃げると、これぐらいの気持ちをもたんとあかん。

サツチェル：

一気に100歩でも200歩でも下がると。

北野会長：

いやだから昔からいう五十歩百歩ちゅうのは50歩逃げても100歩逃げても逃げたのには変わりはないんやから、目一杯安全なところまで逃げたのが勝ちやと。わしはそういう風に思っとるんやて。

サッチェル：

どうせ逃げるんだったら。

北野会長：

そうそう。だから危険やとおもって察知した瞬間に手は出さない。これはおれの鉄則やからね。あとは静観しとると。だからおれは昔から思っとるんやけど、こう有志がこれだけおってさ、Oと孔明が戦争するんやて。で、おれにもどっちかに参戦せんか？ゆうんやて。おれは絶対に参戦せんよ。おれは机の下に頭隠して、戦争二人が戦い終わってから、「お！刀もあるし兜もある」と。

真田孔明：

落ちてる武器を拾いに行くんですね。

北野会長：

ゆっくり拾うと。こういうタイプや。だから昔からやっぱ堅実なんや。

真田孔明：

いまみたいにアメリカと日本が株で戦争してるときは、もう大人しくしてるんですね。

北野会長：

そう。そんな闘う必要ねえ。最終的に生き残っとるゆうことが勝ったゆう証拠なんやと。すごいわかりやすいやろ？生きとれば勝ったという証拠やから。そんな慌てて死んだってなんのいいこともない。今日のコーヒーえらい濃くない？ところでの話やけど。

メンバー：

こっちだれも来てない（笑）

北野会長：

あっ来てないの？

メンバー：

昨日より濃いですね。

北野会長：

濃いよね。

サッチェル：

昨日より濃いですか？

北野会長：

舌がおかしいのかな。今何時頃なんよ？ところの話やけど。

真田孔明：

今・・・8時です。

サッチェル：

（コーヒー飲んで）本当だ。濃いな。

北野会長：

そやる？昨日のコーヒーは、もう少し薄かったような気がするんやて。だから今日一口飲んで
コーヒーが苦いのかゆうて、で、珍しく砂糖を入れたんや。

サッチェル：

苦いですね。

北野会長：

ね？半分の砂糖節約して入れてみる？

サッチェル：

ありがとうございます。

北野会長：

で、美容院やったあなたが会社を作って融資をとったの？

メンバー：

こないだ嫁名義であの～1回目引いたんですけど・・・

北野会長：

奥さん名義で？

メンバー：

はい。

北野会長：

あー。奥さんが代表取締役や。

メンバー：

そうです。僕は個人で確定申告をしてしまってたので、まあまずは嫁でってところで本当に今その段階で。はい。融資額も一番少ないんですけど。

サッチェル：

まあだから両取りしちゃえばいいんですよ。自分は自分で引っ張って奥さんは奥さんで引っ張って。

メンバー：

はい。多分40ぐらいまでしかちょっと美容師も長くは続けられないかなと。思うのは次の形を作りたいなど。

北野会長：

そやろね。

サッチェル：

違う銀行行けば同じストーリーでも引っ張れますよ。

メンバー：

あ！そうですね。はい。

北野会長：

なんで、今借りた金を定期預金にして次の・・・いや今定期預金するから倍出せゆうストーリーはあんま流行らんやて。昔はこれ専門でも結構いけたんやて。

真田孔明：

なんかそれ、昔まで通用したんだけど途中でなんか女性の方が6500億ぐらい・・・

サッチェル：

銀座のママですよ？

真田孔明：

そう。なんかやって飛ばして、それ以来出来なくなっちゃったみたいですね。その手口。それ以来ビッグニュースになって。

北野会長：

だから金ってのはね、やっぱ信用問題。いやだから返しても返さんでもいいのが金でないかなと思ったり。

サッチェル：

その技が通じる期間ってありますよね。

北野会長：

そうそう。技の有効期限ちゅうやつやろ？いやいやだから新しい手口ってのは必ずね、変化のごとに現れてくるんやて。だからそれをやっぱ研究しとかんな。情報入れる。

サッチェル：

で、それは会長のやり方だと、聞いた方が早いよね、知ってる人に。ってということですよね。

北野会長：

聞いた方がはええんやて。んなね、計算機買って計算するがかさ、彼にゆうてやらすのも・・・

サッチェル：

答えは一緒ですもんね。答え一緒ですもん。自分で計算しようが誰かに計算してもらおうが。

北野会長：

そうそう。世の中ってのはそんなもんやて。だからおれはさ、よく孔明さんにゆうんやけど、おれが働くやろ？これ一人工なんやてね。おれが働くとおれは一人工なんやて。一人のあなたが、櫛と・・・包丁じゃないけど・・・

メンバー：

はい。ハサミ・・・

北野会長：

ハサミをもってカチャカチャっと、これ一人工なんやて。でもあんた手二本あるて両方でこうおわおわて、ね？（笑）だからこれ一人工なんやて。ところが人を10人雇って技を教えれば十人工になるんやて。言葉が十人工にかわるんやて。で、100人を扱えば百人工に変わっていくわけや。ね？一人で働いたら一人工しかないんやて。

真田孔明：

イチニクのクはどういう形のクでしたかね？

北野会長：

一人やろ？

メンバー：

口じゃなかったですけ？

真田孔明：

口って言うんですか？

メンバー：

工場の工。

メンバー：

あ、工場の工か。

真田孔明：

工員の工って意味か。

北野会長：

初めて国語の話するね。（笑）

サッチェル：

あ、文字にしないとイケないから・・・

真田孔明：

そう。文字に（笑）

サッチェル：

でも打ったら出てくるんじゃないですか？

北野会長：

いや一人工って言うやろ？

メンバー：

いいますよね。

北野会長：

びっくりしたわ、今。どこで驚かされっかわからんもんやね。

メンバー：

工ですね。工業の工。

真田孔明：

ああ。

北野会長：

わかった？

真田孔明：

はい。

北野会長：

一人工やよ？結局はさ、考えとることはおれからゆうとそうなんや。だからノウハウを、会社作って会社の社長に、「銀行が一番のお客さんなんだよ」と。「だから銀行の担当者とまず仲良くなったら、担当者にまずは融資の話から。そんな預金しても銀行は喜ばない」こういうようにこう教えてけば、あとは話決まったらうちの手形はないから。この一言よう覚えといて。

「うちの会社には手形がないから」。こう言うがやて。銀行も「あ、この会社手形きってない会社やな」と思うやろ、まず。そこですかさず、「おたくから手形持ってきてください」とお願いするがやて、銀行に。おたくの貸される金額を書いて持ってきてくれれば私はハンコを押します、こういう具合に話をするわけよ。ね？いや「いつまでいるんですか？」と聞かれたら「いつでもいいんや」と。わかる？いつでもいいゆうことは資金繰りがそんな切羽詰まってないゆうことやから。裏をひっくり返して考えるとわかるやろ？そういう具合に対応をしていかんといかんわけよ。「いつ頃資金、ご入用ですか？」必ず銀行はそういう具合に聞くんやて。「いや、別に慌ててないからおたくの銀行がお金余った時でいいですからね」とこうさざっと。ゆうた瞬間にこっち向かんといかんよ。

真田孔明：

（笑）背中で語る。

北野会長：

わかった？ここら辺を各担当の社長に教えて、こう教えるのがこういう具合に難しいんやて。ほってこうやってくっついて行ったらあかんよと。

真田孔明：

社長になるタイプだから、固いタイプだから演技がぎこちないんですね。みんな。

北野会長：

演技を上手にせんないかと。言った瞬間にすっと肩を、右肩をクッと前にやるんやと。これができて初めてやと。

真田孔明：

すげえ。この型がね、会長の。

北野会長：

型が金を生むんやからと。

真田孔明：

剣の型と一緒にですね。

サッチェル：

だから後ろからお金は降ってくると・・・

北野会長：

そうそうそう。だから金ってのは背中からぽっかけてくるっていうのはそういうことなんやて。

サッチェル：

こうやると降ってくると。後ろを向くと。

北野会長：

こうやってずっとゆっくりこう向くと、相手はここしかつながるもんはないやろ？だからこう金がつながるわけよ。わかった？僕はだから牛みたいなもんで金を引っ張るわけやがいね、こうやって。ここらへんはテクニックから入ったら二番目三番目やから、難しいんやて。だから金の交渉っていうのはそういう具合にするとものすごくね・・・

サッチェル：

背中で・・・

北野会長：

うん、背中。わかった？こうやってしゃべるとるようじゃあかんよ。前のめりになったらおわりさ。

サッチェル：

なんか今困ってないんですか？っていったら困ってないんですよっつて。まあ余ってたらいつでも持ってきてくださいぐらいに背中であつて・・・

北野会長：

そうそう。いやこのさらっとがいいわけよ。

サッチェル：

まあ余ってたらいつでも持ってきてくださいと・・・

真田孔明：

すごい難しいね。この間が難しいね（笑）

サッチェル：

余ってない（笑）支店長が余ってるんだったらいつでも、って・・・

真田孔明：

会長はほら、言葉とかがすごくうまくこのね、なんでもうまいですからね。真似するとぎこちなくなる・・・普段やっとかないと。

北野会長：

だから練習が一番やて。毎日顔見るたびにこう肩回す練習・・・わかった？

サッチェル：

「じゃあ」みたいな。「今から持ってきてください。では。」と。

真田孔明：

「金余ってるからね」て。

サッチェル：

「支店長余ってたらいつでも持ってきてください」と。

北野会長：

そうそう。まあこういうゆうと支店長も「野郎えらい余裕あるな」と思わん？余ったら持ってきてくださいとこうゆうんやから。支店長も売り上げこつ足らん日あるんやて・・・月あるんやて。そこに「ええ、確か生意気な社長一人おったなあ」ね？こう思うんやて。つながってき
た瞬間の時に、「じゃあ支店長その余ったなら、支店長せっかくきてくれたんだからいいんじゃないんですか？」とこうさらっといったら、「あ、この人いい人やな」とやっぱ思うんやて。
ここで全ての契約をするからあんたたち失敗するんやて。ここで絶対に契約なんてしないんや。
約束だけしとく。デートしようゆうて約束だけ。で、支店長が前向きになって、融資の担当の
兄ちゃんがきたら「あ、うち小切手切ってないから銀行の小切手、手形持ってきてね」とこう
さらっと言えばさ。ここん時も一緒よ。背中でさらっと・・・

一同：

（笑）

真田孔明：

間がかっこいいよね。舞のようになってきた。

北野会長：

うちは手形扱ってないから、銀行の小切手で手形持ってきてねって担当者に言えばさ、「あ、この会社手形やってないんだ」と瞬時にわかるんやて。ね？であとこの持ってきた時もじっとみたらあかんよ。さらっと日付を・・・（笑）

一同：

（笑）

北野会長：

ここら辺からもう・・・

真田孔明：

これ難しいですね（笑）

北野会長：

第3セクターになってきて、あとほ銀行との約定書、融資返済期限とこういう具合にくるやろうがよ。だから最初はさらっさらでええんやて、じゃんけんグーやから・・・わかった？じゃんけんはグーや。次は？本勝負やから。2回目の借り入れから本勝負やから。だからそこまでにやっぱ油引いてさ、フライパンに火入れとかにゃいかんよ。

サッチェル：

銀行ってどのくらいの手形持ってくるんですか？

北野会長：

いやぁそれは銀行によってさ。

サッチェル：

支店長の枠で持ってくる。

北野会長：

いや、枠よりもじゃんけんグーの時は、何年ローン5年以内なら金利これだけ、10年以内ならこれだけ15年以内ならこれだけってこうゆうやろ？最近私は「一番安いところおたくでは何年なの？」「3年が一番金利安いんです」「じゃあ3年でいいんじゃないの？」とさら一っというんやて。向こうはもうさらっとしとっから。次の言葉は三年経ってから考えればええんやから。今考えるべきことじゃないと。「3年の均等にしますか？」みたいなこと言えばええんやて。じゃあ銀行はどっちがいいの？元本と、元本均等やったけ？

メンバー：

元利均等・・・

北野会長：

元利均等か。あるんやて。

メンバー：

二つある。

北野会長：

二つあるんやて。どっちでもいいよ、ゆうて。必ず僕は一年ぐらい経って返したら、結構資金繰りしんどいしもう一回手形今度3ヶ月でも6ヶ月でも手形変えてこうよ、と。こやって提案するんやて。相手嫌ゆうたらそのまま返しときゃええんやて。相手がオッケーゆうたら6ヶ月の手形で回しとけ。地球は丸いぜ回そうぜ！本当ね、都合のいいとこへ引っ張っていこうとしとるだけなんやけど。まあこれだけ言うのにはね、みなさんはやっぱ5年はかかるやろ。これを上手に。

真田孔明：

書類の見方が（笑）難しいですよ、これ。

北野会長：

いや、話の途中でさっと見ながらこう、肩をすればええんやて。でもこれね、相手はこれ書いてきただけやろ？借りるのはこっちやからね。書類持ってきたってさ。

サツチェル：

例えば2000万の手形を持ってきたと・・・

北野会長：

2000万の返済金が月いくらゆうて書いてある書類まで持ってきてさ、これは相手の言い分や。俺の言い分じゃねえんやから。シャープと一緒にさ、「やめとこうかな・・・どうしようかな・・・ホンハイ冷たいかなあ」

みたいなことゆうてね。これよくあることなんや。話は詰めて赤いハンコを押すまでは、あやふやなんやから。昨日ゆうたやん、歩いって。

サツチェル：

すみません、会長。手形と融資は違うもんなんですか？

北野会長：

一緒やよ。だから最初のじゃんけんゲーは銀行約定書を持ってきて手形の返済表を持ってきてっていう順番になるやろ？あ、そうか手形じゃなくて最初は約定書に返済金額書いて期間も書いていくやろ？それは最初の取引なんやて。返済金額書いてあるやつが。

サッチェル：

もらいました。

北野会長：

おれあれ嫌いだね。たくさん読まんといかんもんで、やっぱちょっと長い方の紙にしといた方が楽やる？お互いに。あっちも楽なんやて。あれやと紙に書いてあるもんで、この返済額のあれ毎月落としていかんとならんがやて。ところが手形っていうのは6ヶ月経ったらこれを返しますっていう紙やから、6ヶ月経ったらまた新しい紙にハンコ押せばまた6ヶ月伸びるわけ。

サッチェル：

のびるってことなんですか。

メンバー：

のびる。そうそう。

サッチェル：

あ、手形なんですか？

メンバー：

いえいえ手形なんて使ったことないですよ。

北野会長：

いやだから手形使ってないから逆に銀行にうちは手形扱ってないから6ヶ月おきのやつに指定、そういう融資ないの？ゆうて。それを転がしっていうんやけど、コロコロっと転がすやる？これ転がし融資っていうんやけど。金なんてね、貯めるまで・・・孔明さんよう書いとるやる？2000万を5万ずつ預金してったら何ヶ月やらかかりますって書いてあるやる？

サッチェル：

33.3年ですね。

北野会長：

そやる？おまえそこに答えが出てしまってるんやから。まだそんなもんに返済しようなんてバカげたこと、年いって死んでしまうっての。今の年から33.3年足したらいくつになるよ？おれの年越えてくるやる。ここに難しい問題があるがさ。

サッチェル：

自分のところに手形がないっていうのはなんでなんですか？

北野会長：

自分が資金繰りに、だから人に対して、支払先全部に対して3ヶ月手形6ヶ月手形お産手形を切っていないゆう証明。手形持っていないゆうことは。

サッチェル：

なるほどなるほど。伸ばしてないよってということか。

北野会長：

そうそう。だからそれをさらっとゆうには「手形ないからね」と。

サッチェル：

健全な経営をしてますよってことなんですね。現金でちゃんと払うところ払ってますよと。伸ばしてないと。

メンバー：

借り入れみたいな感じになってないってこと・・・

サッチェル：

ちゃんとそれぞれに決済してますよと。

メンバー：

そうそう。

真田孔明：

バンダイのお客さんも全員手形ですもんね。6ヶ月とか8ヶ月とか。全部手形。で飛んだらもう回収できない。

サッチェル：

じゃあ危ないってことだ。

北野会長：

その左側にあるハチをみながら・・・わかった？

真田孔明：

これ相当練習しないと無理ですよ。この間が。

北野会長：

まあそこらへんが商売の・・・

サッチェル：

僕らあの紙しかもらってないですよ。

北野会長：

ああ～それだとまだハワイでいった電車にならないから、電車にするときは返済片方でして一枚の紙貰えば、こう返済例えば30万ずつしとると。一年360万返済するわけや。でも500万の紙一枚パンとハンコ押してみいよ。ここに500万入ったんやな。360万出したんや。差し引きいくら？

メンバー：

140万です。

北野会長：

140万プラスやる？資金繰りは。だから水を増やすってのはこういうことなんやて。

サッチェル：

それでこれまた返していったら、また800万の手形をポンと押せば・・・

北野会長：

そうやる？だから金ってのはこうあるやる？高さが同じやる？これをどうやって増やすかって言うたら、簡単やる？返済した分より借入れが多ければ背が高くなるっていうのと同じやないか。昨日もいったやん。借金したお金も金持っとれば金持ちというのはこの現状なんやて。特にこういう金利が安いときは特にそう。だからそういうことも加味しながら人間生きとった方がいいんでない？

サッチェル：

会長。金利を6ヶ月飛ばすのはどっちを飛ばすんですか？手形とはまた違う話なんですか？

北野会長：

いやいや手形やて。

サッチェル：

手形なんですね。6ヶ月前払いするっていうのは・・・

北野会長：

いやいや手形っていうのはね、期限が来たときに利息の決済するんがやて。

サッチェル：

ああその利息の決済を先払いしますよってことで、だから手形出せよっていうんですか？

北野会長：

そういうんじゃないくて、最近経費余ってるもんで支店長金利先に払っとくわ。こんなんさらっ
と行ったらなんとなくカッコのいい単語にならん？

サツチェル：

こっちの手形の分の金利先に払っとくと。

北野会長：

そう先に。でも忘れんところがすごいよね。

メンバー：

金利前払いの話と手形の話は別の話？

北野会長：

一緒の話なんやて。だから借りたお金は普通は決済後払いや。手形の期日が来たときに金利も
つけて払いますよっていうのが普通手形や。

サツチェル：

ああそういうことなんですね、手形って。

北野会長：

僕ねジェントルマンやから先に手形の借りたね、後で払うんしんどいから先に・・・

サツチェル：

あるときに払っとくよと。

北野会長：

うん、あるときに、「あコンマ6？180万やから先払いでええわ」とパツというがやて。「い
や、1年分になりますからその半分で」っていったら「いやあ今180万も90万も余計変わらん」
みたいなこと言っとけばおまえ一年延ばしたのと一緒にやからね。ここにあんたたち気づかんや
ろがいね。だから当然「いや、うちは半分半分でないと」っていったときに「んなあええやろ
そんなもん」て。で、支店長はさ徐に帰ったらさ「見てみ！俺の力を」と。

サツチェル：

1年分取ってきたぞと。（笑）

北野会長：

俺の力はこんなもんなんだよと（笑）

真田孔明：

おまえら営業が甘い！と。（笑）

北野会長：

ちょっと社長にいったら「いやぁいいですいいです」ゆうてすぐ小切手くれたやと。

一同：

(笑)

サツチェル：

これは勉強になるなあ。

北野会長：

これくらいできるようになるとね、もう全然違った世界がある。で、それを受け継いだ次の支店長がそれを見逃すわけがないやろ？

サツチェル：

そうですね。見てますもんねこれを。

北野会長：

だから変わってきても「ここのお客さんはちょっと柄は悪いですけど、こないだも会長が先払いで1年分・・・」「え！？1年分も？じゃあおれが回収に行っても・・・そうか、もう利息入ってしまっとるんか。おお大事なお客さんや」とこうなるわけよ。

サツチェル：

引き継ぎでってことですね。

北野会長：

だから引き継ぎ後はもっと・・・葵の紋みたいにピカーっとくるわけやないかい。そこをこう見とる。いかにこの前方をね・・・。

真田孔明：

家の上から次の支店長の顔色を・・・(笑) 気が合いそうか合いそうじゃないか。

北野会長：

そうそう。そういうのに使うのもいいし、さらりと流すときにこうなる。なんかトラブルになったらね、バーンと一発返しとけばね。借りっぱなしやから、いつでも返す力はあるんやから。

サツチェル：

そうですね。

北野会長：

そやる？返してないんやもん。

サツチェル：

そうですね（笑）

真田孔明：

他人のお金が・・・

サツチェル：

そうですね（笑）返してないんですからありますもんね。

北野会長：

やっぱだからね嫁さんがさおれにさ、「あんたね、こんなもん一回で払う必要ないやないかい」ゆうて「おまえねそんなせこいことゆうな。そんなもん12ヶ月で割ったら15万円ちゃあ、月。おまえクラブって、ヘネシーとマテリ―一本ずつ入れたら15万かかる。そういうこといったら安いもんや」と。15万の信用やと。

サツチェル：

でもその効果は絶大ってことですもんね。

北野会長：

そうそう。

サツチェル：

先払いすると。

北野会長：

だからやっぱそういうのに使う分にはやっぱ、飲み屋の代金。だから銀座と比較してものをやるようになると、簡単にこう大きなことは言えるんやて。これ元本まで返すゆうたらひどいよ・・・そやる？ここにだから経済の問題があるんやて。だから元本を返して生活しとる人はね苦しい生活なんやて。会社を伸ばそうとして元本返しとったらね、資金繰りに絶対につまずく。孔明が、だからそこを正しく書いとるのが孔明さんなんやて。そやる？あのどういうの、会社を、例えば美容院をもう一軒作りたいと思ったら設備投資せんなならんやろ？店舗借りんなならんやろ？増える借金減る信用になる。借金はどんどん増えてくんやて。ほんな利益出る2店舗目は簡単にできるがかうたらそうでもない。ところがあなたみたい今もらっとる収益を、こう移すんなら、これはできるんやて。

サツチェル：

簡単ですよね。

北野会長：

これは簡単や。あるものを移すだけやから。AとBに分散する、これは簡単や。まあそこらをこれからやっぱ皆さんは勉強していかんといかんがねえでない？一番。あとは・・・あ！あんたずっとシンガポールにいるの？あれ。

メンバー：

ずーっといるわけじゃない日本とフィリピンとシンガポールをぐるぐる回ってるんですけど。

北野会長：

あっ三角形作っとるんや。ほー。今日女の問題でけ？

メンバー：

え！？（笑）

北野会長：

いやいやフィリピンの女もいいし、和食も好きだし、いやぁシンガもいいしみたいなもので。なんとなくこうたまに見たら今フィリピンにいますとか、結構フィリピンにいることあるよね

メンバー：

そうですね。毎月3箇所回ってるんで・・・

サッチェル：

あ、毎月回ってるんですね。

北野会長：

あ、いろんな事業やっとるゆうこと？

メンバー：

まあフィリピンはまだ会社ができて収益ができてないですけど・・・

サッチェル：

海外か。いいですね。三ヶ国も持ってたら、法人を。

メンバー：

法人はシンガポールに二つと、フィリピンに一個ですね。

真田孔明：

でも本当この門の人って、僕もユンボさんも悪人さんも3人とも動き回りますよね。共通して。これやっぱ不思議ですよ・・・

サッチェル：

ライフスタイルが変わらないってのはまだだめだな。

北野会長：

まあでもだいぶ感じはよくなってきとるんやろ？その風体からみても。

メンバー：

(笑) どうでしょうね。

北野会長：

まあそんな博打打ちのような感じはせんから、臭いから見て、だからまあ堅実なタイプじゃないかな。前みたいに危ない山を渡ろうとするのだけはやめといた方がいいと思う。結構ね、Mと3人がちょっと山っ気あるんやちゃね、あんたたちね。

真田孔明：

その通りです。

北野会長：

いや俺からみても、山っ気があるが。だからなんとなくなんか変なもんを手に・・・

真田孔明：

興味持って。

北野会長：

興味持って、取れりゃええんやけど、これ自分の手を食われとるんやて。

真田孔明：

取れないですよ。

北野会長：

ね？いやいやこれは俺が感じ取ることだけやよ？ほってね、その割にねみんなね諦め早いやろ？あんたたちの共通点は。

真田孔明：

はやい。この3人の共通点。

サッチェル：

すごい・・・

」

北野会長：

パツとあきらめるんやて。なんてのか頭センチピンなんやけど、なんか全然はええんやて。だからその諦めがはええやの野心家やろ？って訳のわからんところに手入れてさ、「何かあるんでないかの？あいた！」

一同：

(笑)

北野会長：

噛まれて初めてっちゅうよな、なんか3人から共通点あるんが。なんかそういうような気がする。

真田孔明：

そう。共通点。これでも生まれた生年月日で決まっちゃってるとか(笑)

北野会長：

なんかおれにはわからんこの雰囲気かね。

真田孔明：

不思議ですよ。

北野会長：

それが「あ、変わった人やタイプの人がおるな」こう思っておるやろ。で、こないだ同じ門やゆうて、本当にね孔明さんも門で決まっとるんかなあと。

真田孔明：

(笑) ピタッと当てるんですよ会長いつも。

サッチェル：

会長すごいっすよね。

北野会長：

おれほ、あんましそういうことを気にして生きたことないもので・・・

真田孔明：

直感で全部・・・

北野会長：

お愛想済んだ？

メンバー：

ごちそうさまでした！